



公益財団法人

日本学術協力財団

Newsletter of Japan Science Support Foundation

ISSUE 46, July 2024

# Newsletter



## 令和5年度事業報告・収支決算

令和5年度事業報告及び同年度収支決算については、リモート会議形式にて理事会を5月31日に、評議員会を6月24日に開催し、それぞれ原案どおり、議決、承認されました。その概要は以下のとおりです。

## 令和5年度事業報告

### 1 経常的な法人運営

#### ① 学術情報の収集調査及び情報発信・普及啓発

##### i 『学術の動向』の発行

日本学術会議の編集協力を得て総合学術情報誌『学術の動向』を刊行した。

同誌には、国内外の学術の動向を特集するほか、日本学術会議の活動状況を紹介し、広く、大学、研究機関、学協会、一般に周知した。

令和5年4月に季刊第一号を刊行した。

##### ii 『学術会議叢書』等の発行

学術とその成果を広く一般社会に普及するため、日本学術会議の各部及び委員会・分科会において審議された内容や日本学術会議が主催した公開講演会の記録を基に関連資料及び解説を加えて編集した学術会議叢書を刊行しており、令和5年度は次の1冊を刊行した。

学術会議叢書31 「女性の政治参画をどう進めるか」

学術会議叢書31は、(公財)一ツ橋総合財団からの助成を受けて、全国約1,500ヶ所の国公立図書館・大学等に寄贈するとともに、賛助会員たる学術団体等に無償配布した。

#### ② 学術連携推進事業

##### i 科学者連携事業

日本学術会議主催の講演会、シンポジウム等の事業について、学術普及・啓発事業の一環として協力した。

##### ii 学協会に関する実態調査及び調査結果の情報発信

「データベース『学会名鑑』」については、毎年度、日本学術会議協力学術研究団体の実態調査を基に、データの整備・公表を行ってきた。

当財団においては、日本学術会議による同システム運用の充実に向けて連携していくとともに、同会議が毎年度行う協力学術研究団体実態調査の実施等を同会議より受託し、関係データの整備、充実に努めた。

this issue

令和5年度事業報告・収支決算  
賛助会員の状況  
データベース学会名鑑について  
公開講演会開催に対する支援  
出版物のご案内

公益財団法人日本学術協力財団は、賛助会員と助成金・寄付金を拠出いただいた方々のご厚意により、運営されています。

— 編集・発行 —

公益財団法人

日本学術協力財団

〒107-0052

東京都港区赤坂4-9-3

TEL 03-3403-9788

FAX 03-5410-1822

URL <http://jssf86.org/>

2024年7月1日発行

[ 略 ]

### ③ 学協会運営支援

日本学術会議同友会、日本生命科学アカデミー、日本農学アカデミー等からの要請を受けて、各団体活動に係る事務の支援を行った。

## 2 事業運営及び法人財政の改革

### ① 「学術情報の収集調査及び情報発信・普及啓発」(公益目的事業1)の改革

—「科学と社会」に関する発信の一層の強化

#### i 『学術の動向——科学と社会をつなぐ』の改革

同誌については、科学と社会を双方向につなぐ学術誌への改革を基本方針として引き続き誌面の刷新を進めた。

同誌各号においては、下記「科学と社会研究会」関係科学者の論考、原田弘二基金関係若手科学者の論考等を随時掲載した。

特に、令和5年度においては同誌を季刊化し、掲載論考査読の充実と同時に「科学と社会をつなぐ」という同誌刊行の基本理念の下、分野横断的な内容を平易に表現するとの同誌編集方針を強化するとともに、科学者コミュニティの総合的、俯瞰的助言活動に一層資するよう誌面刷新に努めた。

#### ii 「科学と社会」に関する発信—「科学と社会研究会」

「科学と社会研究会」の議論を引き続き推進した。

同研究会の重要テーマである「第三カテゴリーの研究」(既存の研究支援の枠から外れた「純粋な好奇心」に基づく研究)に関しては、同研究会の「種」を発掘する調査研究を引き続き進めた。

#### iii 原田弘二基金による事業展開と社会発信

令和5年度においては、下記のとおり、同基金運営委員会を開催し、i若手研究者の参加による調査研究の推進及び若手研究者のネットワーク作り及びii同基金事業の成果に係る発信強化に向けて具体的に検討した。

同委員会開催：令和5年11月17日 令和6年1月12日 同年2月29日各開催

### ② 法人財政の改革

上記の事業展開を支える法人財政の改革として、以下の取り組みを推進した。

#### i 賛助会員拡大策の推進

引き続き日本学術会議会員・連携会員、学協会等関係方面に対し賛助会員加入を求めた。

特に、令和5年10月1日の日本学術会議第26期発足の機会を捉えて、新たに選任された同会議会員・連携会員等に対して廣渡副会長(組織財政担当)名の賛助会員加入要請書「日本学術会議会員・連携会員のみなさまへのお願い—第26期の開始にあたって—」を送付し、賛助会員加入を求めた。

#### ii 『学術の動向』の季刊化

令和5年度からは『学術の動向』を季刊化し、同誌紙面の刷新・充実とともに、同事業の収支改善を図った。

## 賛助会員の状況

当財団の令和6年3月31日現在の賛助会員数は、下記のとおりです。

(単位：人・法人)

		区分				区分					
		個人	学術団体	企業等	合計	個人	学術団体	企業等	合計		
4 年 度	入会	5	0	0	5	5 年 度	入会	69	0	0	69
	退会(逝去含)	56	2	0	58		退会(逝去含)	46	0	0	46
	年度末現在	1,029	129	2	1,160		年度末現在	1,052	129	2	1,183

# 令和5年度収支決算

令和5年度決算の要点は、以下のとおりです。

## 令和5年度正味財産増減計算書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位：千円)

科目	決算額
I 一般正味財産増減の部	
1 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	323
受取会費	15,325
事業収益	6,068
受取補助金等	1,500
受取寄付金振替額	4,943
雑収益	669
経常収益計	28,828
(2) 経常費用	
事業費	29,020
管理費	6,394
経常費用計	35,414
当期経常増減額	△6,586
2 経常外増減の部	
(1) 経常外収益計	0
(2) 経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△6,586
一般正味財産期首残高	9,410
一般正味財産期末残高	2,824
II 指定正味財産増減の部	
受取寄付金	0
一般正味財産への振替額	△4,943
当期指定正味財産増減額	△4,943
指定正味財産期首残高	119,013
指定正味財産期末残高	114,070
III 正味財産期末残高	116,894

# データベース学会名鑑について

財団は、平成23年7月より、学協会の活動を発信するとともに科学技術情報の効率的な流通を目的として、日本学術会議、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）と連携してデータベース学会名鑑の運用を行ってまいりました。同事業に係るシステムの構築と運用は、令和5年度から、日本学術会議に移管され、「学会名鑑」に掲載する学協会データを更新するため、当財団が受託して同年度の実態調査を行い、現在日本学術会議ホームページにおいてデータが更新されております。

「学会名鑑」の掲載学会は、日本学術会議協力学術研究団体を対象とし、毎年、日本学術会議が行う実態調査を基にデータを更新いたします。このデータは、学協会関係の各種施策の企画・立案等、社会の多方面で活用されています。

各学術団体の関係者の皆様におかれましては、学協会の活動を発信するとともに科学技術情報の効率的な流通を目的として、引き続き、本事業にご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

学会名鑑URL：<https://gakkai.scj.go.jp/>

学会名鑑トップページ



# 日本学術会議地区会議等の公開講演会開催に対する支援

財団は、日本学術会議の各地区会議が開催する下記の学術講演会について、開催に係る支援を行いました。

◎中部地区会議学術講演会  
「未病から Well-being を考える」  
日時：令和6年6月14日（金）  
場所：富山大学五福キャンパス  
（対面・オンライン併用開催）



財団は、日本学術会議の各部会が開催する下記の学術講演会について、開催に係る支援を行うことを予定しております。

◎第三部会学術講演会（近畿地区会議共同主催）  
日時：令和6年8月1日（予定）

◎第二部会学術講演会  
日時：令和6年8月（予定）



※お申込みは FAX にて  
03-5410-1822

A5 判、238 頁  
本体 1,800 円＋税 (送料別)  
賛助会員は割引価格  
1,782 円 (送料込)

## 出版物のご案内

※お申込みは FAX にて 03-5410-1822

品切れを除く近刊の書籍については  
Amazon からもお買い求めいただけます。

### 学術の動向



『学術の動向』は、令和 5 年度より、季刊化いたしました。  
年 4 回 (4 月・7 月・10 月・1 月) 発行し、版型を B5 版に改めました。  
B5 判・本体価格 1,650 円 (税・送料込)  
年間購読 6,006 円 (税・送料込)  
賛助会員は毎号 1 冊無料配布

令和 6 年 4 月号 特集『気候変動と異常気象—何が問題で何をすべきなのか—』  
[インタビュー]  
東京大学先端科学技術研究センター教授 中村 尚 氏

### 学術会議叢書

A5 判 1,980 円 (税込・送料別)  
賛助会員は割引価格 1,782 円 (税込・送料無)



- |    |                      |    |                              |
|----|----------------------|----|------------------------------|
| 2  | 科学技術教育の国際協力ネットワークの構築 | 24 | 〈いのち〉はいかに語りうるか?              |
| 9  | 医療事故は予防できるか          | 25 | IT・ビッグデータと薬学                 |
| 12 | どこまで進んだ男女共同参画        | 26 | 社会脳から心を探る                    |
| 16 | 食の安全を求めて             | 27 | 持続可能な社会への道                   |
| 17 | ダーウィンの世界             | 28 | 日本の食卓の将来と食料生産の<br>強靱化について考える |
| 18 | 科学を文化に               | 30 | 「人間の尊厳」とは—コロナ危機を経て—          |
| 20 | 放射能除染の土壌科学           | 31 | 女性の政治参画をどう進めるか               |
| 22 | 地殻災害の軽減と学術・教育        |    |                              |
| 23 | 子どもの健康を育むために         |    |                              |

### 日学新書

新書判 825 円 (税込・送料別)  
賛助会員は割引価格 743 円 (税込・送料無)

- 2 感覚器 [視覚と聴覚] と社会とのつながり



◎ 当財団の運営、ニュースレター等に関するご意見、ご要望がございましたら、当財団総務担当までお寄せください。

今後の参考にさせていただきます。皆様方のご意見、ご要望をお待ちしています。

公益財団法人日本学術協力財団

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-3  
TEL 03-3403-9788  
03-5410-0242  
FAX 03-5410-1822  
URL <http://jssf86.org/>